

現在、日本はドジョウを中国から輸入しているそうです。  
ところが、中国から日本に空輸される間に80%のドジョウは死んでしまいます。あまりにも水槽が揺れてしまい生存出来ないというわけです。  
しかし、これでは原価が高くなるばかりです。  
そこで、考えられたのが、ドジョウの天敵のナマズを水槽の中に一緒に入れることだったそうです。  
ナマズをドジョウの水槽に入れると、ナマズは中国から日本に飛行機が向かう間にドジョウを食べまわります。ナマズがドジョウを食べる数は水槽の全体の20%にも及ぶそうです。  
しかし、ナマズを入れた水槽では、一匹のドジョウも死なない。つまり、ナマズに食べられたドジョウの数だけが損失であり、輸送効率は20%から80%と4倍になったという話です。

私たちは、どうしても「安定」を求めてしまいます。  
しかし、直観的に「安定」を求めたら経営が駄目になることはわかっています。  
その私たちの直感をこのドジョウのエピソードはよく表しています。

社内のスタッフは放っておけば、保守化します。  
別に、給料が同じならば、無理して無秩序の方向に飛び込む必要なんて彼らにはありません。  
経営者がどんなにナマズを入れようと考えても、最大の抵抗勢力は社内にあるわけですから簡単にいきません。  
それに経営者自身も、自分の経営にナマズを入れようという意思がどれだけあるかは疑問です。  
ある程度歴史のある会社には簡単なことではありません。

安定の中に混沌を組み入れることは、下手をすると全てを崩壊させてしまうことも考えられます。  
ナマズは20%のドジョウしか食べませんでしたが、それを実行する前には100%のドジョウが食べられてしまう恐れもあった訳です。  
ちなみに、案内と混沌の均衡点のことを「カオスの縁」といいます。  
複雑なものは混沌と安定とのはざまにある危うい領域でのみ成立し得るといえる考えは、当たり前のことですが、日常の活動の中で無意識に安定化を選んでしまう我々には衝撃的な言葉でした。

### <経営のヒント>

私たちは成長に合わせて苦痛(問題)が増えます。  
私たちは、どこかで成長の結果として静寂と安泰が待っていると思いがちですが、そんなことはありません。  
自社を少し危険なところに置いておく  
それによる損失は当然ですが、100%ではない。  
20%の損失を最初から見込んでカオスに身をさらす。  
そんな行動が「カオスの縁」という場を作る方法だと思います。  
経営者はドジョウの中に、わざと天敵のナマズを入れるという決断(選択)が必要です。  
それが未来を見通す立派な経営者の姿なのかもね。  
もしかしたら、参謀役の私の役目は・・・ナマズだったりして!